



内令第七百四十三號

昭和十五年内令第八百八十二號中吳鎮守府ノ項ヲ左ノ通改正ス

昭和十六年七月一日

海軍大臣 及 川古志郎

人員ヲ左ノ如ク改ム

少	將	出仕	一人
主計	中佐	出仕	一人
兵科、機關科	尉官	出仕	一人
兵科	中少佐	出仕	一人
機關	中少佐	出仕	一人
主計少佐、主計大尉		出仕	一人
兵科特務士官、准士官		附	二人
整備科特務士官、准士官		附	二人
機關科特務士官、准士官		附	一人
主計科特務士官、准士官		附	一人

(廣海軍航空廠(假稱)設立準備ニ充ツルモノ)

内令

七九三

1738

内令

七九四

兵	曹	四人	(掌砲兵一、掌帆兵一)
整備	曹	一人	(掌整備兵)
機關	曹	二人	(掌機兵 内火 一)
工	曹	一人	(掌工兵 木具)
看護	兵	一人	
主計	兵	三人	(掌經理兵 一)
水兵、整備	兵、機關	八人	
大	佐	一人	(由良内防備隊(假稱) 設立準備ニ充ツルモノ)
主計	少佐、主計	大尉	出仕兼務一人

参照 前記内令ハ昭和十六年九月三十日迄横須賀鎮守府等ニ人員臨時増設ノ件ナリ

内令第七百四十四號

當分ノ間左ノ通人員ヲ臨時増設ス

昭和十年内令第三百四十二號、昭和十五年内令第七百三十號、同年内令第九百十八號及同年内令第

1739

千三十一號ハ之ヲ廢止ス

昭和十六年七月一日

海軍大臣 及 川古志郎

海軍兵學校

機關少佐、機關大尉 教官 五人

特務 大中尉 附兼教官 四人 (横須賀、吳鎮守府在籍者各二)

機關兵曹、機關兵 七人

參照 廢止内令ハ海軍兵學校ニ人員臨時増置ノ件ナリ

内令第七百四十五號

昭和十六年内令第二百六十二號中「兵曹、水兵 二百九人」ヲ「兵曹、水兵 二百十  
三人」ニ改ム

昭和十六年七月一日

海軍大臣 及 川古志郎

内令

七九五

参照 前記内令ハ第二遣支隊司令部ニ人員臨時増置ノ件ナリ

内令第七百四十六號

昭和十六年内令第三百九十號中「兵曹、水兵 六百六十六人」ヲ「兵曹、水兵 六百八十二人」ニ、佐世保鎮守府在籍者ノ欄中「四百三十三人」ヲ「四百四十九人」ニ、「百二十八人」ヲ「百三十六人」ニ改ム

昭和十六年七月一日

海軍大臣 及 川古志郎

参照 前記内令ハ海南警備府ニ人員臨時増置ノ件ナリ

内令第七百四十七號

當分ノ間左ノ通人員ヲ臨時増置ス

昭和十六年七月一日

海軍大臣 及 川古志郎

軍 艦 足 柄

整備兵曹、整備兵

五人(掌整備兵〔高普一〕)

内令第七百四十八號

支那事變中左ノ通人員ヲ臨時増置ス

昭和十六年七月一日

海軍大臣 及 川古志郎

福州在勤海軍武官

主計兵曹、主計兵

一人(掌經理兵〔佐世保鎮守府在籍者〕)

内令第七百四十九號

昭和十六年内令第六百九十五號中「兵曹(教員)十四人(掌砲兵 高)」ヲ「兵曹(教員)四十八

人(掌砲兵 高二七)ニ改ム  
(掌測的兵 高二二)」

昭和十六年七月一日

海軍大臣 及 川古志郎

内 令

七九七

1742

内令

七九八

参照 前記内令ハ横須賀海軍砲術學校ニ人員臨時増置ノ件ナリ

内令第七百五十號

當分ノ間左ノ通人員ヲ臨時増置ス

昭和十六年七月一日

海軍大臣 及 川古志郎

海軍機雷學校（曳船（驅潜艇型）公稱第一一八二號及公稱第一一八三號乗員ニ充ツベキモノ）

兵 曹、水 兵

十四人

（掌機雷兵<sup>高</sup> 二）  
（掌帆兵<sup>高</sup> 二）

機關兵曹、機關兵

十二人

（掌機兵<sup>普</sup> 六）  
（掌電機兵<sup>普</sup> 六）

内令第七百五十一號

昭和十五年内令第九百號中左ノ通改正ス

昭和十六年七月一日

海軍大臣 及 川古志郎

横須賀鎮守府ノ部中「第二驅潜隊」ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

1743

吳鎮守府ノ部中

能代丸	二				
-----	---	--	--	--	--

第十七驅逐隊				三各艦
--------	--	--	--	-----

第十七驅逐隊				四各艦
--------	--	--	--	-----

ニ改メ

「濱風」ノ項ヲ削ル

「國洋丸」ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

東榮丸	一				
寶洋丸	一				

備考第一號中「管崎丸」ヲ「能代丸、管崎丸」ニ、「國洋丸一人」ヲ「國洋丸、東榮丸及寶洋丸各一人」ニ改ム

參照 前記内令ハ分隊長、中少尉、機關中少尉及主計科尉官定員中特務士官ヲ以テ充ツベキ位置ヲ定ムル件ナリ

内令第七百五十二號

佐世保鎮守府豫備艦

内令

七九九

1744

内令

八〇〇

右警備艦卜定メラル

昭和十六年七月一日

軍艦 能登呂

海軍大臣 及川古志郎

内令第七百五十三號

驅逐隊編制中左ノ通改定セラル

昭和十六年七月一日

海軍大臣 及川古志郎

第四驅逐隊ノ項中「野分」ヲ削ル

(内令提要卷一、六八頁参照)

内令第七百五十四號

横須賀鎮守府練習兼警備驅逐艦

驅逐艦 野分

1745



右警備驅逐艦ト定メラル

第二驅潜隊

横須賀鎮守府警備兼練習驅潜艇

第十三號驅潜艇

第十四號驅潜艇

第十五號驅潜艇

右專ラ警備驅潜艇ト定メラル

昭和十六年七月一日

海軍大臣 及 川古志郎

内令第七百五十五號

吳鎮守府所管

特設運送船(給油船) 東榮丸

特設運送船(給油船) 寶洋丸

内令

八〇一

1746

内令

八〇二

右特設運送艦ト改ム

昭和十六年七月一日

海軍大臣 及 川古志郎

内令第七百五十六號

吳鎮守府所管

特設掃海艇 第五十一播州丸

特設掃海艇 第六博多丸

右佐伯防備隊附屬ト定メタル處之ヲ解ク

昭和十六年七月一日

海軍大臣 及 川古志郎

1747



内令第七百五十七號

當分ノ間左ノ通人員ヲ臨時増置ス

昭和十五年内令第千二十九號ハ之ヲ廢止ス

昭和十六年七月一日

海軍大臣 及川古志郎

特設航空機運搬艦富士丸

中	少	佐	尉	大尉	少佐	兵科	機關	軍醫	飛行科	整備科
佐	尉	大尉	少佐	尉	少佐	尉	大尉	尉	尉	准士官
飛行長	通信長兼分隊長	分隊長	乘組	整備長兼分隊長	乘組	乘組	乘組	乘組	乘組	乘組
一人	一人	一人	二人	一人	一人	一人	一人	一人	四人	二人

内令

八〇三

1748

内令

八〇四

兵 曹、水 兵

十二人 (掌信號兵 掌電信兵 高三四三五)

飛行兵曹、飛行兵

二十三人 (掌飛行兵)

整備兵曹、整備兵

七十六人 (掌整備兵 掌航空兵器兵 高三四三五 一八〇)

看護兵曹、看護兵

一人

主計兵曹、主計兵

五人 (掌經理兵 一)

参照 廢止内令ハ單艦能登員ニ人員臨時増置ノ件ナリ

内令第七百五十八號

當分ノ間左ノ通人員ヲ臨時増減ス

昭和十六年七月一日

海軍大臣 及 川古志郎

特設運送艦東榮丸、寶洋丸

増員

大 尉 航海長

一人

1749

○注意 前送ノ分ト引換ノ上舊紙ハ燒却相成度

中 少 尉 乗組 三人

機 關 大 尉 機 關 長 兼 分 隊 長 一人

機 關 中 少 尉 乗 組 四人

減 員

特 務 中 少 尉、兵 曹 長 二人

兵 曹、水 兵 四十二人

機 關 兵 曹、機 關 兵 十二人 (特 修 兵 適 宜)

看 護 兵 一人

主 計 兵 曹、主 計 兵 三人

内令第七百五十九號

昭和十六年内令第七百十七號中左ノ通改正ス

昭和十六年七月一日

海 軍 大 臣 及 川 吉 志 郎

「機 關 兵 曹 (教 員) 六 人 (掌 機 兵、高 機)」ヲ「機 關 兵 曹 (教 員) 十 人 (掌 機 兵、高 機)」ニ、

内 令

八〇五

1750

内令

八〇六

「機關特務中少尉、機關兵曹長 附兼教官（教員）二人（吳、佐世保鎮守府在籍者各一）  
 機 關 兵 曹（教員） 十人（吳、佐世保鎮守府在籍者各一）  
 「機關特務中少尉、機關兵曹長 附兼教官（教員）三人（横須賀、吳、佐世保鎮守府在籍者各一）  
 機 關 兵 曹（教員） 十六人（鎮守府在籍者各一）  
 「二改ム」

参照 前記内令ハ海軍工機學校ニ人員臨時増設ノ件ナリ

内令第七百六十號（所要ノ向ヘ配付）

1751

内令第七百六十一號

特設水上機母艦トシ横須賀鎮守府所管ト定メラル

昭和十六年七月一日

海軍大臣 及川古志郎

汽船能代丸

内令  
 八〇七  
 汽船能代丸  
 昭和十六年七月一日  
 海軍大臣 及川古志郎  
 特設水上機母艦トシ横須賀鎮守府所管ト定メラル

1752

内令第七百六十二號 (所要ノ向ニ配付ス)

内令第七百六十三號

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル

昭和十六年七月二日

驅逐艦 秋月

海軍大臣 及川古志郎

内令第七百六十四號

海軍定員令中左ノ通改正セラル

昭和十六年七月二日

海軍大臣 及川古志郎

一等驅逐艦定員表其ノ七ヲ別表ノ如ク定ム

(別表一葉添)

(内令提要卷一、一四六頁参照)

内令

1753



内令

内令第七百六十五號

特修兵教員配置規則中左ノ通改正ス

昭和十六年七月二日

海軍大臣 及 川古志郎

特修兵配置表其ノ十四中夕雲ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

秋月	〇〇	〇三	五七	七八	八〇	〇〇	〇六	〇〇	〇二	一三	三四	四四	四四	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇六	一七	三九	三九	三四	三四	七	〇	一	〇	七	二
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	---	---	---	---	---	---

同表末尾ニ左ノ如ク加フ

備考

一 本表ノ外秋月型驅逐艦ニ掌機雷兵(高機一、高水測一、普一)ヲ配置ス

(内令提要卷一、四四六頁参照)

内令第七百六十六號

佐世保鎮守府在籍

驅逐艦 秋月

corrected from p. 849, 1911 八二二

1754

第七十四表ノ五

(昭和十六年)

考 備	計		乘 組	乘 組	機關長兼分隊長	乘 組	水雷長兼分隊長	砲術長兼分隊長	航海長兼分隊長	驅逐艦長	一等驅逐艦定員表 其ノ七
	特務士官	士官									
一 特務中少尉及兵曹長ノ中一人ハ掌砲長、一人ハ掌水雷長ニ充テ 二 機關特務中少尉及機關兵曹長ノ中一人ハ機械長、一人ハ艦長 人ハ掌機長ヲ兼ネシムルモノトス 三 驅逐隊ニ編入セラレザル驅逐艦ニハ必要ニ應ジ乗組トシテ軍 人及看護兵曹又ハ看護兵一人ヲ置クコトヲ得	二人	八人	一	一	二	一	一	一	一	秋 月	
	兵	下士	主 工 機 水	主 工 機 兵	兵 曹	兵 曹	兵 曹	兵 曹	兵 曹	兵 曹	

尉官一人、主計科尉官一 人ハ補機長ニ充テ其ノ一	官	官	兵	兵	兵	兵	曹	曹	曹	曹	曹長	曹長
	三百八十五人	七十五人	三人	十	二十	六十	百十三	三	二	二十七	四十三	二
												秋 月

(令第七百六十四號別表)

右當分ノ間定員ヲ置カズ

昭和十六年七月二日

海軍大臣 及 川古志郎

○正誤

内令第六百五十號中第三號ハ左ノ誤

三 研究實驗部

砲類實驗部、光學實驗部、理學研究部、化學研究部、研究部、魚雷實驗部、機雷實驗部、航海實驗部、通信實驗部、電氣研究部、音響研究部、電氣實驗部、電池實驗部、科學部、材料部、飛行機部、發動機部、兵器部、電氣部（海軍航空技術廠ノミ）、爆彈部、發著機部、飛行實驗部、潜水艦部、造船研究部、材料研究部、造船實驗部、機關實驗部、工作機械實驗部及製鋼實驗部ヲ謂フ

内令

八一三

1756

内令第七百六十七號

大正四年内令第二百十二號ハ之ヲ廢止ス

昭和十六年七月三日

海軍大臣 及川古志郎

参照 大正四年内令第二百十二號ハ艦内彈火藥庫名稱並火藥火工品格納庫別ノ件ナリ(十版内令提要卷三、六八二頁)

○正誤

本年内令第六百八十六號中「造船監督官助手兼造兵監督官助手」ハ「造船監督助手兼造兵監督助手」ノ誤

本年内令第七百十七號中「兼横須賀海兵團分隊長」、「兼横須賀海兵團附」及「横須賀海兵團附兼務」ハ術

内令

八一五

1757

内令第七百六十八號

昭和十五年内令第四百四十八號中「主計特務中少尉、主計兵曹長 附一人」ヲ削ル

昭和十六年七月四日

海軍大臣 及 川古志郎

参照 前記内令ハ軍令部（廣州海佛國租借地ニ出張スベキモノ）ニ人員臨時増置ノ件

内令第七百六十九號

昭和十年内令第四百十四號別紙中別紙ノ通改正ス

別紙ハ海軍艦政本部長ヲシテ所要ノ向ニ之ヲ配付セシム

昭和十六年七月四日

海軍大臣 及 川古志郎

（昭和十年内令第四百十四號ハ艦船（潜水艇ヲ除ク）各種狀態ニ於ケル搭載物件重量配分標準ノ件ナリ）

内令第七百七十號

海南海軍特務部規程中左ノ通改正ス

内令

八一七

1758

昭和十六年七月四日

海軍大臣 及 川古志郎

第三條第一項中「充ツ」ヲ「充テ局長、課長及部員ノ命課ハ海南警備府司令長官之ヲ行フモノトス」ニ改ム

附則

本令ハ昭和十六年六月十日ヨリ之ヲ適用ス

(内令提要卷一、二〇ノ六頁参照)

内令第七百七十一號

昭和十六年八月十日迄左ノ通人員ヲ臨時増置ス

昭和十六年七月四日

海軍大臣 及 川古志郎

第二遣支艦隊司令部

兵 曹、水 兵

九十人

掌電信兵	二	横須賀鎮守府在籍者一〇、吳鎮守府在籍者六、
掌信號兵	三	佐世保鎮守府在籍者七
特修兵適宜(暗號)	七	横須賀鎮守府在籍者三〇、吳、佐世保鎮守府在籍者一五

1759

内令第七百七十二號

昭和十五年内令第五百六十四號中「昭和十六年八月三十一日迄」ヲ「當分ノ間」ニ改ム

昭和十六年七月五日

海軍大臣 及川古志郎

参照 前記内令ハ横須賀海軍軍需部等ニ人員臨時増置ノ件ナリ

内令第七百七十三號

昭和十五年内令第五百九十五號ハ之ヲ廢止ス

同年内令第九百二十六號中「航空」ヲ「整備」ニ改ム

昭和十六年七月五日

海軍大臣 及川古志郎

参照 昭和十五年内令第五百九十五號ハ海軍航空本部ノ人員臨時増減ノ件  
同年内令第九百二十六號ハ聯合艦隊司令部ニ人員臨時増置ノ件

内令

八一九

1760



内令第七百七十三號

右本籍ヲ吳鎮守府ト定メラル

昭和十五年十一月一日

軍艦大和

海軍大臣 及 川古志郎

内令

一六九三

1761





内令第七百七十四號

當分ノ間左ノ通人員ヲ臨時増置ス

昭和十六年内令第三百十七號及同年内令第四百四十二號ハ之ヲ廢止ス

昭和十六年七月五日

海軍大臣 及 川 吉 志 郎

海軍工作學校

- 機關少佐、機關大尉 教官兼分隊長 一人
- 工作特務大中尉 教官兼分隊長 三人 (横須賀、吳、佐世保鎮守府在籍者 各一)
- 工作特務中少尉、工作兵曹長 附兼教官(教員) 九人
- 看護特務中少尉、看護兵曹長 附 一人
- 主計特務中少尉、主計兵曹長 附 二人
- 兵 曹 長 (教員) 一人
- 兵 曹 (教員) 九人 (掌砲兵 高六、掌帆兵 高二、掌信號兵 高一)
- 兵 曹、水 兵 二十六人

内令

八二一

1762

整備兵曹 (教員) 一人 (掌整備兵、高)

機關兵曹 (教員) 五人 (掌機兵、高機一、高内火二)

機關兵曹、機關兵 十五人

工作兵曹 (教員) 六十三人 (掌工兵、特又、高)

工作兵曹、工作兵 四十七人 (掌工兵 普)

看護兵曹、看護兵 十一人

鍛冶	機械	仕上	板金	熔接	鑄造	木具
五	七	八	五	三	一	一八
横須賀、吳、舞鶴 鎮守府在籍者各一	横須賀、吳、舞鶴 鎮守府在籍者各二	横須賀、吳、佐世保 鎮守府在籍者各二	横須賀、吳、佐世保、舞鶴 鎮守府在籍者各一	横須賀、吳、佐世保、舞鶴 鎮守府在籍者各一	横須賀、吳、佐世保、舞鶴 鎮守府在籍者各五	横須賀、吳、佐世保、舞鶴 鎮守府在籍者各四

主計兵曹、主計兵

二十五人

参照 昭和十六年内令第三百十七號及同年内令第四百四十二號ハ海軍工作學校ニ人員臨時増置ノ旨ナリ

内令

八三三

1764



内令第七百七十五號

昭和十六年内令第二百六十一號中左ノ通改正ス

昭和十六年七月八日

海軍大臣 及 川古志郎

「特務中少尉、兵曹長」ノ項以下ヲ左ノ如ク改ム

- 特務中少尉、兵曹長 附 三十一人 (内) 横須賀鎮守府在籍者 一、吳鎮守府在籍者 二、舞鶴鎮守府在籍者 三、
- 飛行科特務士官、准士官 附 一人 (横須賀鎮守府在籍者)
- 機關特務中少尉、機關兵曹長 附 十人 (内) 横須賀鎮守府在籍者 一、吳鎮守府在籍者 二、
- 看護特務中少尉、看護兵曹長 附 六人 (内) 吳鎮守府在籍者 二
- 主計特務中少尉、主計兵曹長 附 六人 (内) 横須賀、吳鎮守府在籍者各 一
- 兵曹、水兵 千百十一人
- 飛行兵曹、整備兵曹 十一人
- 機關兵曹、機關兵 二百九十三人
- 工作兵曹、工作兵 七人

corrected from p. 883, 1941

内令

八二五

1765

内令

看護兵曹、看護兵 五十人

主計兵曹、主計兵 六十八人

本令ニ依ル下士官、兵ノ内譯左ノ如シ

						横須賀鎮守府在籍者
兵曹、水兵	三百六十一人	六百六十三人	四百七十四人	百十三人		佐世保鎮守府在籍者
飛行兵曹、整備兵曹	十人	一人				舞鶴鎮守府在籍者
機關兵曹、機關兵	八十一人	二十一人	百八十人	十一人		
工作兵曹、工作兵		三人	二人	二人		
看護兵曹、看護兵		二十八人	二十人	二人		
主計兵曹、主計兵	九人	十九人	三十四人	六人		
	掌砲兵 掌機雷兵、機 掌信號兵 掌電信兵 四 二七 二二 二六	掌砲兵 掌測的兵 掌帆兵 掌信號兵 掌電信兵 三 一 二 四 二	掌砲兵 掌測的兵 掌水雷兵、機 掌帆兵 掌信號兵 二〇 一 一 五 二〇 二六			

八二六

1766

特修兵別

特修兵適宜 (暗號)	一二
掌飛行兵又ハ 掌整備兵	〇
掌機兵 (機銃 内火 罐)	〇
掌電機兵 其ノ他特修兵適宜	一
特修兵適宜 (暗號)	九
掌飛行兵又ハ 掌整備兵	一
掌機兵 (機銃 内火 罐)	五
掌電機兵 掌工兵、金屬 掌經理兵 其ノ他特修兵適宜	一一
掌電信兵 特修兵適宜 (暗號)	九八
掌機兵 (機銃 内火 罐)	一一
掌電機兵 掌工兵、鍛冶 木具 掌經理兵 掌衣糧兵 其ノ他特修兵適宜	九七
特修兵適宜	一一三五九五

参照 前記内令ハ支那方面艦隊司令部ニ人員臨時増置ノ件ナリ

内令第七百七十六號

支那事變中左ノ通人員ヲ臨時減員ス

昭和十五年内令第六百七十一號及同年内令第六百七十二號ハ之ヲ廢止ス

昭和十六年七月八日

海軍大臣 及 川吉志郎

少 佐、大 尉 分隊長	九江基地隊	南京基地隊
	一人	一人

内令

八二七

1767

内令

八二八

中少尉隊附	二人	二人
特務中少尉、兵曹長隊附	七人	八人
兵曹、水兵	百六十四人	二百十三人
機關兵曹、機關兵	十一人	十一人
工作兵曹、工作兵	二人	二人
看護兵曹、看護兵	二人	二人
主計兵曹、主計兵	七人	六人

特修兵ハ適宜トス

参照 昭和十五年内令第六百七十一號ハ九江基地隊ノ人員臨時減員ノ件  
同 年内令第六百七十二號ハ南京基地隊ノ人員臨時減員ノ件

1768

内令第七百七十七號

當分ノ間左ノ通人員ヲ臨時増置ス

昭和十三年内令第五十五號、同年内令第六百七十五號、昭和十四年内令第六百五十五號、昭和十五年内令第四百六十五號、同年内令第九百四十九號及昭和十六年内令第三百五十七號ハ之ヲ廢止ス

昭和十六年七月八日

海軍大臣 及 川古志郎

東京海軍通信隊(大和田分遣隊勤務)

兵 曹、水 兵

七十六人(掌電信兵)

高 六六  
普 一〇

吳世保 鎮守府在籍者  
佐保 鎮守府在籍者  
舞鶴 鎮守府在籍者

一九  
四六

内令第七百七十八號

當分ノ間左ノ通人員ヲ臨時増減ス

昭和十六年七月八日

海軍大臣 及 川古志郎

内令

八二九

1769



内令

八三〇

増員

鎮海海軍通信隊（會文分遣隊）

兵曹、水兵

八人（掌電信兵）（吳鎮守府在籍者）

減員

滿洲國在勤帝國大使館附武官附（哈爾濱駐在）

兵曹、水兵

八人（掌電信兵）（吳鎮守府在籍者）

内令第七百七十九號

當分ノ間左ノ通人員ヲ臨時増置ス

昭和十六年七月八日

海軍大臣 及 川古志郎

東京海軍通信隊（大和田分遣隊勤務）

兵曹長 附 一人

1770

内令第七百八十號

昭和十五年内令第九百號中左ノ通改正ス

昭和十六年七月十日

海軍大臣 及川古志郎

舞鶴鎮守府ノ部中

舞鶴	海兵團	四	五	一	ヲ	舞鶴	海兵團	五	五	一	ニ改ム
----	-----	---	---	---	---	----	-----	---	---	---	-----

参照 前記内令ハ分隊長、中少尉、機關中少尉及主計科尉官定員中特務士官ヲ以テ充ツベキ位置ヲ定ムル件ナリ

内令第七百八十一號

海軍定員令中左ノ通改正セララル

昭和十六年七月十日

海軍大臣 及川古志郎

要港部定員表中機關大中佐ノ下「一」ヲ「兼務二」ニ、士官ノ下「<sup>十人</sup>」ヲ「<sup>十人</sup>」ニ改ム  
内兼務三人  
内兼務四人

内令

八三一

1771

内令

八三二

海軍工作部定員表中機關大中佐ノ下「兼務一」ヲ「二」ニ、士官ノ下「五人兼務三人」ヲ「五人兼務三人」ニ改ム

ニ、「五人兼務四人」ヲ「五人兼務三人」ニ改ム

(内令提要卷一、一八九頁参照)

内令第七百八十二號

部内聯合教練通信實施要領別冊ノ通定ム

昭和十四年内令第三百三十八號ハ之ヲ廢止ス

(別冊ハ所要ノ向ニ之ヲ配付ス)

昭和十六年七月十日

海軍大臣 及 川 古 志 郎

内令第七百八十三號

海軍航空隊ノ所屬、名稱及所在地ノ件中左ノ通改正セラル

昭和十六年七月十日

海軍大臣 及 川 古 志 郎

1772

備考ニ左ノ一號ヲ加フ

二 鹿兒島縣出水郡ニ佐世保海軍航空隊出水分遣隊ヲ置ク

(内令提要卷一、二六頁参照)

内令第七百八十四號

海軍定員令中左ノ通改正セララル

昭和十六年七月十日

海軍大臣 及川古志郎

聯合艦隊、艦隊、戰隊司令部定員表備考第一號中

「少佐、大尉 一人」  
兵曹長 一人ヲ  
兵曹長 一人  
兵 十五人  
兵 十九人

ニ、「附兵曹 六人」ヲ「附 兵 六人」ニ改ム

戰艦定員表其ノ一中特務中少尉各「七」ヲ「八」ニ、兵曹各「二百一」ヲ「二百三」ニ、特務士官

各「十五人」ヲ「十六人」ニ、下士官各「三百二十六人」ヲ「三百二十八人」ニ改ム

戰艦定員表其ノ二中特務中少尉各「七」ヲ「八」ニ、兵曹各「二百二十三」ヲ「二百二十五」ニ、

内令

八三三

1773

特務士官各「十五人」ヲ「十六人」ニ、下士官「三百三十九人」ヲ「三百四十一人」ニ、「三百四十一人」ヲ「三百四十三人」ニ、各「三百四十九人」ヲ「三百五十一人」ニ改ム

戦艦定員表其ノ三中特務中少尉各「六」ヲ「七」ニ、兵曹「百八十七」ヲ「百八十九」ニ、「百九十六」ヲ「百九十八」ニ、特務士官各「十五人」ヲ「十六人」ニ、下士官「三百十七人」ヲ「三百十九人」ニ、「三百二十三」ヲ「三百二十五人」ニ改ム

練習戦艦定員表中特務中少尉「六」ヲ「七」ニ、兵曹「二百七」ヲ「二百九」ニ、特務士官「十五人」ヲ「十六人」ニ、下士官「三百三十四人」ヲ「三百三十六人」ニ改ム

一等巡洋艦定員表其ノ一中兵曹「百十」ヲ「百十二」ニ、「百七」ヲ「百九」ニ、下士官「百九十六人」ヲ「百九十八人」ニ、「百九十三人」ヲ「百九十五人」ニ改ム

一等巡洋艦定員表其ノ二中兵曹各「八十九」ヲ「九十一」ニ、「八十八」ヲ「九十」ニ、下士官「百四十八人」ヲ「百五十人」ニ、「百五十一人」ヲ「百五十三人」ニ、「百五十二人」ヲ「百五十四人」ニ改ム

航空母艦定員表其ノ一中兵曹「三十八」ヲ「四十」ニ、下士官「百四十三人」ヲ「百四十五人」ニ改ム

1774

航空母艦定員表其ノ二中兵曹「百八」ヲ「百十」ニ、「百十七」ヲ「百十九」ニ、下士官「五百五人」ヲ「五百七人」ニ、「五百七人」ヲ「五百九人」ニ改ム

航空母艦定員表其ノ三中兵曹「四十八」ヲ「五十」ニ、下士官「百九十五人」ヲ「百九十七人」ニ改ム

航空母艦定員表其ノ四中兵曹「六十四」ヲ「六十六」ニ、下士官「二百九十人」ヲ「二百九十二人」ニ改ム

航空母艦定員表其ノ五中兵曹「八十三」ヲ「八十五」ニ、下士官「四百三十二人」ヲ「四百三十四人」ニ改ム

航空母艦定員表其ノ六中兵曹「五十二」ヲ「五十四」ニ、下士官「二百四人」ヲ「二百六人」ニ改ム

敷設艦定員表其ノ一中八重山ノ欄兵曹「三十五」ヲ「二十七」ニ、白鷹ノ欄兵曹「二十二」ヲ「十四」ニ、水兵「七十七」ヲ「七十八」ニ、「八十三」ヲ「八十四」ニ、下士官「四十二人」ヲ「四十三人」ニ、「三十六人」ヲ「三十八人」ニ、兵「百二十五人」ヲ「百二十六人」ニ、「百二十四人」ヲ「百二十五人」ニ改ム

内令

八三五

1775

敷設艦定員表其ノ三中兵曹「三十二」ヲ「三十四」ニ、水兵「百四」ヲ「百五」ニ、下士官「五十人」ヲ「五十二人」ニ、兵「百五十八人」ヲ「百五十九人」ニ改ム

敷設艦定員表其ノ四中兵曹「四十三」ヲ「四十五」ニ、水兵「百五十三」ヲ「百五十四」ニ、下士官「八十二人」ヲ「八十四人」ニ、兵「二百七十二人」ヲ「二百七十三人」ニ改ム

敷設艦定員表其ノ五中兵曹「二十三」ヲ「二十五」ニ、水兵「七十八」ヲ「七十九」ニ、下士官「四十三人」ヲ「四十五人」ニ、兵「百三十九人」ヲ「百四十人」ニ改ム

海防艦定員表其ノ二中兵曹「四十五」ヲ「四十七」ニ、水兵「二百二十六」ヲ「二百二十七」ニ、下士官「九十七人」ヲ「九十九人」ニ、兵「四百七人」ヲ「四百八人」ニ改ム

砲艦定員表其ノ一中兵曹「十」ヲ「十一」ニ、下士官「二十四人」ヲ「二十五人」ニ改ム

砲艦定員表其ノ三中兵曹「十三」ヲ「十四」ニ、下士官「二十四人」ヲ「二十五人」ニ改ム

砲艦定員表其ノ四中兵曹「六」ヲ「七」ニ、下士官「十二人」ヲ「十三人」ニ改ム

砲艦定員表其ノ五中兵曹各「六」ヲ「七」ニ、下士官各「十三人」ヲ「十四人」ニ改ム

砲艦定員表其ノ六中兵曹「七」ヲ「八」ニ、下士官「十五人」ヲ「十六人」ニ改ム

一等驅逐艦定員表其ノ二砲、響、雷、電ノ欄中兵曹「三十九」ヲ「四十一」ニ、水兵「九十」ヲ「九

1776

十一」ニ、下士官「五十九人」ヲ「六十一人」ニ、兵「百五十八人」ヲ「百五十九人」ニ改メ同表備考ニ左ノ一號ヲ加フ

四 本表ノ外驅逐艦狹霧、漣、曙、潮ニハ各兵曹二人及水兵一人ヲ増加ス

一等驅逐艦定員表共ノ三中兵曹「三十五」ヲ「三十七」ニ、「三十九」ヲ「四十一」ニ、「四十一」ヲ「四十三」ニ、水兵「八十二」ヲ「八十三」ニ、「八十三」ヲ「八十四」ニ、「九十」ヲ「九十一」ニ、下士官「五十五人」ヲ「五十七人」ニ、「五十九人」ヲ「六十一人」ニ、「六十一人」ヲ「六十三人」ニ、兵「百三十八人」ヲ「百三十九人」ニ、「百三十九人」ヲ「百四十人」ニ、「百四十六」ヲ「百四十七人」ニ改ム

一等驅逐艦定員表共ノ四中兵曹「四十一」ヲ「四十三」ニ、水兵「九十」ヲ「九十一」ニ、下士官「六十一人」ヲ「六十三人」ニ、兵「百四十六人」ヲ「百四十七人」ニ改ム

二等驅逐艦定員表共ノ五及一等驅逐艦定員表共ノ六中兵曹「四十一」ヲ「四十三」ニ、水兵「九十」ヲ「九十一」ニ、下士官「六十七人」ヲ「六十九人」ニ、兵「百四十六人」ヲ「百四十七人」ニ改ム

一等潜水艦定員表共ノ一中兵曹「十六」ヲ「十七」ニ、各「十四」ヲ「十五」ニ、下士官各「三十

内令

八三七

1777



四人」ヲ「三十五人」ニ、「三十二人」ヲ「三十三人」ニ、「三十五人」ヲ「三十六人」ニ改ム  
 一等潜水艦定員表其ノ二中兵曹「十一」ヲ「十二」ニ、下士官「二十七人」ヲ「二十八人」ニ改ム  
 一等潜水艦定員表其ノ三中兵曹「十四」ヲ「十五」ニ、下士官「二十八人」ヲ「二十九人」ニ改ム  
 一等潜水艦定員表其ノ四中兵曹「十六」ヲ「十七」ニ、下士官「三十六人」ヲ「三十七人」ニ、「四十人」ヲ「四十一人」ニ改ム  
 一等潜水艦定員表其ノ五伊號第七、第八ノ欄中兵曹「二十一」ヲ「二十二」ニ、下士官「四十八人」ヲ「四十九人」ニ改ム  
 二等潜水艦定員表其ノ一中兵曹「十二」ヲ「十三」ニ、「十一」ヲ「十二」ニ、下士官「二十六人」ヲ「二十七人」ニ、「二十五人」ヲ「二十六人」ニ改ム  
 二等潜水艦定員表其ノ二中兵曹「九」ヲ「十」ニ、下士官「二十人」ヲ「二十一人」ニ改ム  
 二等潜水艦定員表其ノ三中兵曹「八」ヲ「九」ニ、下士官「二十人」ヲ「二十一人」ニ改ム  
 水雷艇定員表中兵曹「十三」ヲ「十五」ニ、「十五」ヲ「十七」ニ、水兵「三十八」ヲ「三十九」ニ、「四十一」ヲ「四十二」ニ、下士官「二十八人」ヲ「三十人」ニ、「三十人」ヲ「三十二人」ニ、兵「八十一人」ヲ「八十二人」ニ、「八十五人」ヲ「八十六人」ニ改ム

1778

掃海艇定員表其ノ一中兵曹「十三」ヲ「十四」ニ、「十五」ヲ「十六」ニ、下士官「三十二人」ヲ「二十三」ニ、「二十五人」ヲ「二十六人」ニ改ム  
掃海艇定員表其ノ二中兵曹「十二」ヲ「十三」ニ、下士官「三十二人」ヲ「二十三」ニ改ム

(内令提要卷一、二六九頁参照)

内令第七百八十五號

特修兵教員配置規則中左ノ通改正ス

昭和十六年七月十日

海軍大臣 及川古志郎

特修兵配置表其ノ五聯合艦隊司令部ノ項中兵科特修兵適宜ノ欄「一二」ヲ「一六」ニ改ム  
特修兵配置表其ノ六及特修兵配置表其ノ七中兵科特修兵適宜ノ欄各「二」ヲ「四」ニ改ム  
特修兵配置表其ノ九中兵科特修兵適宜(暗號員)ノ欄各「二」ヲ「四」ニ改ム  
特修兵配置表其ノ十一中掌水雷兵ノ欄ヲ左ノ如ク改ム

内令

八三九

1779







同表備考第一號ヲ左ノ如ク改ム

一 本表ノ各驅潛艇ニハ掌衣糧兵、普一ヲ配置ス

(内令提要卷一、四二二頁参照)

内令第七百八十六號

大正九年内令第二百七十三號中左ノ通改正ス

昭和十六年七月十日

海軍大臣 及 川古志郎

敷設艇燕、鷗乗員標準中兵曹「八」ヲ「十」ニ、水兵「二十七」ヲ「二十九」ニ、下士官「十三人」ヲ「十五人」ニ、兵「五十人」ヲ「五十二人」ニ、「掌水雷兵」<sup>〔高ニ〕</sup>ヲ「掌機雷兵」<sup>〔高機三、水測四〕</sup>ニ改ム

敷設艇夏島、那沙美乗員標準中兵曹「十四」ヲ「十六」ニ、水兵「二十七」ヲ「二十九」ニ、下士官「二十人」ヲ「二十二」人ニ、兵「五十一人」ヲ「五十三人」ニ、「普雷」ヲ「普機雷」ニ、「掌水雷兵」<sup>〔高ニ〕</sup>ヲ「掌機雷兵」<sup>〔高機三、水測二〕</sup>ニ改ム

内令

八四三

1783

敷設艇猿島乗員標準中兵曹「十四」ヲ「十六」ニ、水兵「二十七」ヲ「二十九」ニ、下士官「二十一人」ヲ「二十三人」ニ、兵「四十人」ヲ「四十二人」ニ、「普雷」ヲ「普機雷」ニ、「掌水雷兵」<sup>〔高ニ〕</sup>ヲ「掌機雷兵」<sup>〔高機三、水測二〕</sup>ニ改ム

敷設艇測天、自神、巨濟、成生、浮島乗員標準中兵曹「十一」ヲ「十三」ニ、水兵「二十七」ヲ「二十九」ニ、下士官「十八人」ヲ「二十人」ニ、兵「四十人」ヲ「四十二人」ニ、「掌水雷兵、普二」ヲ「掌機雷兵、普二」ニ、「掌水雷兵」<sup>〔高ニ〕</sup>ヲ「掌機雷兵」<sup>〔高機三、水測二〕</sup>ニ改ム

敷設艇平島乗員標準中兵曹「十四」ヲ「十六」ニ、水兵「三十二」ヲ「三十四」ニ、下士官「二十一人」ヲ「二十三人」ニ、兵「四十五人」ヲ「四十七人」ニ、「掌水雷兵、普二」ヲ「掌機雷兵、普二」ニ、「掌水雷兵」<sup>〔高ニ〕</sup>ヲ「掌機雷兵」<sup>〔高機三、水測二〕</sup>ニ改ム

哨戒艇乗員標準中兵曹「二十二」ヲ「二十四」ニ、「十四」ヲ「十六」ニ、水兵「五十九」ヲ「六十一」ニ、「三十八」ヲ「三十九」ニ、下士官「三十六人」ヲ「三十八人」ニ、「二十六人」ヲ「二十八人」ニ、兵「九十六人」ヲ「九十七人」ニ、「七十人」ヲ「七十一人」ニ改メ掌水雷兵ノ欄ヲ左ノ如ク改ム

○	二	高	掌水雷兵
○	二	普	
三/四	四/六	機	掌機雷兵 高/普
一/二	一/二	水測	

(内令提要卷一、四五六ノ一五頁参照)

内令第七百八十七號

昭和十五年内令第九百九十九號中「富士川丸」ヲ削ル

昭和十六年七月十日

海軍大臣 及 川古志郎

参照 前記内令ハ特設航空機運搬艦五洲丸等ノ人員臨時増減ノ件ナリ

内令

八四五

1785